

'98 春日井市民第九演奏会



指揮
エルンスト・タイス

とき **1998. 12. 6** SUN 午後 3 時開演
午後 2 時開場

ところ **春日井市民会館**

入場料 **1,000円 (全自由席)**



ソプラノ
塚田 京子



アルト
玉敷やよい



テノール
森岡 謙一



バス
蓮井 求道

指揮 エルンスト・タイス
ソプラノ 塚田 京子 アルト 玉敷やよい
テノール 森岡 謙一 バス 蓮井 求道

管弦楽 春日井市交響楽団
合唱 春日井第九合唱団 合唱指揮 吉川 朗
曲 目 ベートーヴェン作曲
交響曲 第 9 番 二短調 作品125「合唱付」

■ チケット取扱い場所(発売日10/6②より)

春日井市役所 2F 情報コーナー・春日井市民会館・春日井市東部市民センター・春日井市内各公民館(中央、知多、鷹来、坂下)・春日井市内ふれあいセンター(味美、高蔵寺、南部、西部)

主催/春日井市・春日井市教育委員会・
'98春日井市民第九演奏会実行委員会
共催/春日井市交響楽団・春日井第九合唱団
後援/中部大学・中部大学女子短期大学・中日新聞本社

お問い合わせ先

管弦楽 春日井市交響楽団

平成2年11月、春日井市初のアマチュアオーケストラとして誕生。翌年創立記念演奏会を開催。以後毎年、春日井市民会館の満席の聴衆の前で定期演奏会を開き、今年7月の第7回定演でも、ベートーヴェンの「交響曲第3番・英雄」などを演奏して成功を納める。名誉会長の鶴岡一郎春日井市長、会長 山田和夫中部大学長、団長の花村浩克を中心とした約60名の団員が、春日井市の音楽文化の原動力となるべく日々研

鑽を積んでいる。昨年9月の愛環「千人の第九」(名古屋市)・今年6月の「桑名菖蒲コンサート」(桑名市)・9月の「第1回愛環音楽祭」(瀬戸市)など、他都市にまで活動の場を広げて「音楽大使としての市民オケ」の役割を果たしている。今回の「第九演奏会」では、指揮者エルンスト・タイス氏と共に、「格調高い表現力豊かな演奏を実現したい」と意気込んでいる。

合唱 春日井第九合唱団

平成5年12月の春日井市制50周年記念「第九演奏会」に出演した春日井市民を中心に結成された合唱団。それ以降、毎年12月に開かれる春日井市民第九演奏会に、200名の大合唱団として出演。創立以来、ベテランの指導者吉川朗先生の熱心な指導に加えて、団長の荒川昭代とそれを支えるスタッフの優れたリーダーシップが、経験豊かな団員を勇気づけ、心のこもった

質の高い演奏を生みつけている。昨年9月に春日井市交響楽団と共に愛環「千人の第九」演奏会に出演。今年9月にも「第1回愛環音楽祭」(瀬戸)に各都市の合唱団と一緒に参加し、吉川先生の指揮で「ふるさと四季」を歌い好評を得る。今回は、新しいメンバーもたくさん加わって、「昨年以上にダイナミックな合唱をお聴かせしたい」と張り切っている。

指揮者 エルンスト・タイス Ernst Theis

1961年にオーストリアのオーバーエスターライヒ州に生まれ、ウィーン音楽大学で指揮と打楽器とトランペットを学びました。まず、オーケストラの指揮の勉強をするのもっともふさわしい場所である打楽器奏者として活躍。ウィーン国立歌劇場やORF交響楽団の打楽器をつとめ、打楽器のソリストとしても、「ニーダーエスターライヒ現代の秋」などに出演。1992年から指揮者として本格的な活動を始め、

ウィーン青年劇場で「音楽劇場の胚芽シリーズ」の現代小オペラの指揮をしました。それ以降、ウィーンフィルの室内オーケストラの指揮者としてポーランド・ツアーを行うなど、内外のオーケストラを指揮して好評をえています。昨年、春日井市民第九演奏会の指揮をした、アレクサンダー・ドゥルカーさんのウィーン音楽院での兄弟子に当たり、今回、初の日本公演が大きな話題を呼んでいます。

ソプラノ 塚田京子 つかだ・きょうこ

桐生市出身。国立音楽大学およびポロニヤ国立音楽院卒業。1980年第18回ジュー・コンクール第1位、同年第1回ストラッチャーリ・コンクール第1位。1981年にバヴァロティ・コンクールで優勝するなど国際声楽コンクールを次々と制覇。1982年、フィラデルフィアにおける「ラ・ボエーム」のミミをバヴァロティと共演して、オペラ・デビューを飾る、1985年から翌

年にかけて、ヴェルディの《エルナーニ》(エルヴィーラ)をモデナなどのイタリアの歌劇場で歌い、最大級の賛辞を浴びる。日本には1983年、日生劇場の《フィガロの結婚》の伯爵夫人でデビュー。1986年10年間のイタリア留学を終えて帰国。藤原歌劇団の《ラ・ボエーム》のミミで絶賛を博した。平成5年度文化庁芸術祭賞受賞。藤原歌劇団団員。国立音楽大学専任講師。

アルト 玉敷 やよい たましき・やよい

武蔵野音楽大学声楽科卒業。洗足大学マスターコース修了。中山侑一、伊原直子、中島基晴など諸氏に師事。1986年渡伊。ミラノ・ヴェルディ音楽院に入学。アントニオ・ベルトラミ、ジュリエッタ・シミアナート諸氏に師事。1989年イタリアのベルガモ歌劇場において「椿姫」のフローラ役でデビュー。その後ヨーロッパ各地の歌劇場に出演。国内においても、労音主催「人間

を返せ」、ベートーヴェンの「第九」、ヘンデルの「メサイヤ」や数多くのオペラのほか、NHK-FMクラシックなどにも積極的に出演。1990年よりイタリアの演奏家と共に労音主催「イタリア・音楽紀行」の連続演奏会を各地で開催。1997年同総集編のCDをリリース。現在、国内はもとより、ヨーロッパで幅広い活躍をつづけている。二期会会員。

テノール 森岡 謙一 もりおか・けんいち

ウィーン・コンセルバトリウム・オペラ科を卒業。1985年にウィーン国立歌劇場研究所に入る。アイネムのオペラ《老婦人の訪問》の医師役でウィーン国立歌劇場にデビュー。日本人男性としては二人目の快挙となる。以来、ヨーロッパの各地で活躍。1987年からミラノに移り、イタリア・オペラのレパートリーを確実なものにする。イタリアやスイスをはじめ各地のコンサートやテレビで活躍。1990

年から本拠地を北九州に移して地元の音楽文化振興につとめ、1997年に北九州市民文化奨励賞を受賞。《椿姫》のアルフレート、《ドン・カルロ》のタイトルロール、《アイダ》のラダメス、《仮面舞踏会》のリカルドなどの主役をつとめる。ソリストとして、ベートーヴェンの「第九」をはじめ各種のコンサートに出演。我が国では数少ない実力派のリリコ・スピント・テノール。

バリトン 蓮井 求道 はすい・ぐどう

作陽音楽大学声楽科、同学部専攻科に学び、堤温、三枝喜美子の諸氏に師事。1981年から87年まで同音楽大学教授をつとめる。オペラマイスタークラスを創設、室長。74年渡伊。ミラノ・ヴェルディ音楽院に入学。1981年、ウィーン国立音楽院オペラ科、同オペラマイスタークラスに学ぶ。第12回トーティ・ダル・モンテ国際コンクール第1位(伊)。第8回日伊声楽コンクール金賞(日)。

ジュリエッタ・シミアナート特別賞(伊)を受賞。シミアナート女史に師事。ヨーロッパ15ヶ国の歌劇場で、主要な役を180回以上も歌いつづけている。国内においては、二期会のオペラ「シモン・ボッカネグラ」などのオペラやオラトリオに出演し、そのレパートリーは25以上におよぶ。「イタリア・音楽紀行」連続演奏会を各地で開催し国内外で活躍、実力派として知られる。二期会会員。

『あなたが今年、春日井市民第九を聴きに来ない理由』

「春日井市民第九演奏会」が誇りうるものは数多くあります。そのうちの五つだけご紹介しておきましょう。まず第一に、市民の参加が多いことです。出演者は合唱団280名とオーケストラ80名で360名。実行委員会と事務局なども含めて関係者が40名。聴衆のみなさまが1000名。合計1400名の市民が一堂に会する市民の心の交流の場です。二つには、合唱団もオーケストラもアマチュアであることです。春日井市民第九合唱団も、創立以来、素晴らしい歌を聴かせてくれます。また、難曲の「第九」を花村浩克団長を中心としたマチュアの春日井市交響楽団が挑戦をつづけて6年です。今年も最高の演奏をめざしています。三つには、毎年、はっきりした「テーマ」をもっていることです。第1回は「春日井市制施行50周年記念祝賀第九」(1993年)でした。第2回は竹本泰蔵さんの指揮と地元のソリストのみなさんによる「親愛第九」(1994年)。第3回は、ニューヨークから指揮者とソリストを招いての「日米親善第九」(1995年)。第4回は、音楽大学の学生たちを中心とした「新世紀第九」(1996年)。昨年の第5回は、ウィーンからアレクサンダー・ドゥルカーさんを指揮者に招いた「ウィーン第九」(1997年)でした。今年はその「アンコール公演」で、ドゥルカーさんの先輩エルンスト・タイスさんをお招きしました。四つには、舞台も客席も一つになって、「日本語の第九」をアンコールで歌う「春日井賛歌」です。五つには、「第九」においても、この四つことを常に同時に可能にする春日井市民の文化度の高さです。こうして、みなさんのご支援があって初めて可能な「春日井市民第九演奏会」だから、あなたが今年の「春日井市民第九演奏会」を聴きに来ない理由の一つもありません。(音楽監督・都築正道)

* 都合により出演者の変更がある場合があります。